

イデア
No. 2

D-GEN
No. 2 春期南伊
豆特集号
1970.4.10



神奈川
新刊
発行
印

GarRe

No2 春期 伊呂宿
特集号
1970.4.10 発行



★ 花巻 山口
★ 山口 北川洋行
★ 新潟 北川洋行
★ 新潟 北川洋行
★ 新潟 北川洋行
★ 新潟 北川洋行

★ 新潟 北川洋行
★ 新潟 北川洋行
★ 新潟 北川洋行
★ 新潟 北川洋行
★ 新潟 北川洋行

★ 新潟 北川洋行
★ 新潟 北川洋行
★ 新潟 北川洋行
★ 新潟 北川洋行
★ 新潟 北川洋行

★ 新潟 北川洋行
★ 新潟 北川洋行
★ 新潟 北川洋行
★ 新潟 北川洋行
★ 新潟 北川洋行



部長挨拶

春のうららかな風が髪に優しくそよぐ今日この
 ぐり、皆様は元氣にお暮らしのことを感じ
 あげます。
 思えば、天千分け目の選挙戦からはやろヶ月も
 過ぎました。今ここに皆様は挨拶できることを
 無上の喜びと感じているし、だいでございませ
 二の短い月日の間、私がひとえに考え抜いてま
 いりましたことは、思い逃げておごらざるとい
 うこととあります。そうです。昔の武君がそう
 であつたように、私を志を徹しい気持ちで場
 のをむのりでおります。でありませうからして
 どんな事態にぞうぐうしようとも、ほんな中傷
 罵声をおびられようとも、びた一文たりともお
 びりません。そうです。絶対おびりません。
 じかし女性はその怒りにあらず、いつなんなり
 とも私にお申しつけ下さい、いつでもお力添え
 しましょう。

しかし、さにあらず、私の生まれ故郷新潟に
 は、ごんはことわざがありませう。おごるあほうに
 見まあほう、同じあほうなりおごりやば換々し
 そ、私が考えますに、この相及する入つこのこと
 わざをうまく活用すべく、春の合宿を、後
 者のことわざに、使いたいと思ひます。春休
 みをおぼいんおびりたいたいと思ひます。その
 みるほんなりとお申しつけ下さい、いつでもお

さまでこの不毛期雜誌デーゲンも回を重ねるに
 とは、やる号をむかえ、前部長南聖氏の
 意心をうけつぎ、ま、はからすも二に、資
 金参加させて、ま、したことは、Dゲン編集
 局の皆様方の、御配慮のたまものとして
 ニニに、つしんで感謝申し上げるし、だいで
 ざいます。言ひませぬ、ごいませんが、この
 格調高き不毛期雜誌Dゲンに、わづか、なりとも
 お力添えを、ませぬ、は、私のごとき、田舎の
 ギター奏者のみならず、全世界の有名ギター
 リストにとり、せめても、最高の名誉でありませ
 かうして、私、ほんが、資金参加させてもらえ
 ましたこと、は、は、未代までの、誉れとして、深
 く敬意を、おぼし、だいで、ございませぬ。
 新年慶を、むかえ、るにあたり、ま、Dゲンの
 より、一層の、飛躍を、ギター、ア、ニ、サ、ン、ゲル、の、成
 長発展を、願ひ、ま、して、挨拶に、かえ、させ、て、いた、だ
 さい、たい、と思ひ、ます。

会計挨拶

僕は今度、会計になりました。木下啓です。あ
 まり、自信は、あり、ません、が、何、と、か、や、つ、て、い、く、つ
 ぶり、です、から、よろ、しく、お、願、い、し、ま、す。
 僕が、会計、にな、つ、た、の、は、家、が、了、時、計、を、
 兼、て、い、て、男、一、人、は、ん、で、卒、業、し、た、ら、金、の、計、
 算、を、ん、か、を、ま、ら、な、さ、や、い、け、な、い、ん、で、今、か、う

部長挨拶

春のうららかな風が髪に優しくそよぶ今日の
 のよう、皆様様は元氣にお暮らしのことと存じ
 あげます。

思えば天千分け目の選挙戦からはやろヶ月も
 過ぎました。今ここに皆様様は挨拶できることを
 無上の喜びと感じているし、だいでございませぬ。
 三の短い月日の間、私がひとえに考え抜いてま
 いらしたことは、思い逃げておごりずしとい
 うことではありません。そうです。昔の武君がそう
 であつたように、私もまた厳しい気持ちで場
 のをむのりしております。でありますからして
 どんな事態にどうしようしようとも、どんな中傷
 罵声をあびられようとも、びた一文たりとお
 こりません。そうです。絶対おごりません。
 へかし女性はその思ひにあらず、いつでもお力添え
 とも私にお申しつけ下さい。いつでもお力添え
 しますよう。

しかしきにあらず、私の生まれ故郷新潟に
 は二人はことわざがおります。おごるあほうに
 見るあほう、同じあほうなりおごりやばば。そ
 れで私が考えますに、この相対する入りのこと
 わざをうまく利用すべく、春の合流をば、後
 者のことわざに倦いたいと思ひますので、春休
 みまでほんんおごりたいていと思ひます。その
 おごるほんんおごりたいていと思ひます。その

さてこの不毛期難認デーゲンも回を重ねるこ
 とはやる号をむかえまして、前部長南聖氏の
 意心をうけつぎます。ま、はからずもここに
 金参加させてもつ、ましたことは、Dゲン編集
 局の皆様方の暖かい御配慮のたまものとして
 二にのつしんで感謝申し上げるし、だいで
 ざいます。言うまでもございませぬが、この
 格調高き不毛期難認Dゲンにわづかひりとも
 お力添えできませぬことは、私のごとき田舎の
 ギター奏者のみならず、全世界の有名ギター
 リストにとりまして、最高の名誉でありませ
 かつして、私ほんんが資金参加させてもらえ
 ましたことには、未だまでの誉れとして深
 く敬意を払うし、だいでございませぬ。
 新年慶をむかえるにあたりましてDゲンの
 より一層の飛躍と、ギターアンプの成
 長発展を願ひまして挨拶にかえさせていた
 だきたいと思ひます。

会計挨拶

僕は今度会計になりました。木下啓です。あ
 まり自信はありませぬが何とかわつていくつ
 くりです。からよろしくお願ひします。
 僕が会計になつたのは、家が丁度時計屋を
 買って、男一人はんで卒業したう金の計
 算なんかをやるなやいけな人で、今からう

なつてオカヤクヤンにしかうれなくますむし、
 それに……僕が小さく、女の手に
 誘ふ機会が生まれ、このかた一度もなつたの
 で、今計にすれば女の子が部費をもつてくれ
 るので、自然と誘ふ機会がでると思つて……
 女の方、どうかよろしくお願ひします。
 それより僕は……女の子には優しいけれど、
 野郎はあんまり好きじゃありません。ひどくや
 ていきたいと思つておりますから逆討部費は
 滞納したいように、オメエう、そのつもりでい
 ろよ。

書記挨拶

この一年間、書記をつとめさせてもらうことに
 なりました。有難う申す。……
 え？ 僕の好きなものですか。そりやなんど
 いつても JAZZ と マニキュア と、そ
 れでハヤライスに付いてくる グリーニピー
 ス。それくらいです。
 ……まあ見ていて下さい。

指揮者挨拶

指揮者の川崎です。よろしく。先日、今夜未中
 のカラヤンから **秘** 指揮者の本をもらつて、目
 下勉強中です。その中に沢山の練習本があり
 ました。三度の食事の際には、ハジ一本で
 食べることに……
 諸君、これから一年間、よろしく。
 指揮者を生かすも殺すも諸君しだいなので。

マネージャー挨拶

春です。ねえー 皆さん。
 潮風が快く良いです。ねえー
 アツ。みんな前になんか可愛いわが……
 伊豆……思い出すなあー 痛り子を……
 僕が東京に居る時だった
 あの日劇……ジグホルムのステジを……
 由し渡れよ。私が今度マネージャーに
 なりました。よろしく。

南伊豆ガイド



何んと言、ても下賀茂は湯の町、そこです、ウシジシのあな場を紹介しよう。下賀茂をゆったリ流れる青野川下りにある混浴、これがまた、入浴無料と来ている。ここに行かまの馬鹿か不能者のどちらかだよ。

さて次は二人ホッ子の貴方の為に、熱帯植物園を紹介しよう。温泉熱を利用したこの植物園にはパイナップル、マンゴ、パイナップル、与論へ行、た人は懐かしい、ハイビスカス、こうした南洋ムードい、は、いの中で二人きりで-----して、思、出さつくったらと思、います。ここも入浴無料。他は自分處て、深あこと。それが、何んとの穴場だよ。



—伊豆熱川—伊豆急下田
2時間40分
伊豆自然観察の旅
伊豆急

	有料道路
	舗装道路
	非舗装道路

程続いたようだ。ニ水がおさずると、今度江
藤がホーッとした顔でフラツとさあがり、相
り谷さん相手になう覚えの字品をやり始めた。
さ小が何度やってもうまうまいかないのである。
彼があれ、たしはうくして桐谷さんが言った。
「その字品なり僕知ってるよ。」江藤ニ水にふ
てくされたつりでオモコロツと寝てしまった。
そしてあとからこのニ水を話すと「そんなニ水
あつた、けかな。」全く覚えていないそうであ
る。へたくそな字品につまあわさ小れた桐谷
さんニ水を、いい述感である。

その翌日、帰りのしたくもできあがり皆、ワッ
ジを出たのに、まだ起きてニハハニ入がいた。
コニドを飲みすぎ、帰ろうと思つてもどうして
も起きあが小なりつたのだ。山内と富沢で
あつた。日我、早するニ水にしたらしい。あつ
て聞てみると、かなり親切にしてもらった様
だ。

帰りのロープソコの中ニこの合宿をふりか
えつてみた。アンサンブルの曲が奏けずた、あ身
感を持つたニ水。ギターを弾く阿間より卓球を
やつて、いる阿間の方が多かった。又あつり
一面が霧にツクニ水。そ小が夕焼けによつて、マ
ラ色に染まり美しかった。ハイキングで何
山々の雄大さに驚き、お釜の水の不思議な色を
見て火口をみたり、たが帰りに雨に降られ
しかか途でカスがかか、て視界がさかなく、な
り不安にかう小たニ水は、そんな色々なニ水
がニの一週間は、おニ、たんだなあと思つた。

喫茶店討論会

出席者……台宿の在り方について……

出席者 小西 赤沢 川崎 渡辺 志乃
新谷 西畑 司会 斎藤

① お集まり、いたたきありかとうございます。本
日は合宿の前に、その合宿の向んというか、

② 合宿の暮し方みたいな……

③ 合宿の在り方……

④ 討論してどうおんのか。テーゲンにのせたりし
て、ミエミエね(笑う)

⑤ そんなんじやあないすよ。今度の合宿の参考
にしようと思つて……

⑥ 優良可でか? (笑)

⑦ 赤沢さんは?

⑧ マン、ハルゴマ来てねえじやねえか。

⑨ いいんたよ、やちうぜ。

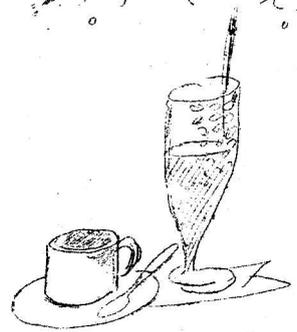
⑩ 西畑さん、ミルクとて。

⑪ おい、やちうぜ。

⑫ 西畑のお伊豆っていい
ところですか?

⑬ イズコにあるの、いす
れ分ると思つけど……

⑭ マジメにやれ、新谷……



★ Divertissement (P40~41) 作曲者 N. Carulli

速さは Moderato で中庸の速さ、しかし6連符や3連符の所をヨエウを持って弾けるスピードで弾くこと。全体かのべらにならないう様に、楽しい様にひくことであら、また各声部の動きに注意して、更に低音(5,6弦)における消音の処理の仕方に注意してもらいたい。

P40. 1段目

第1フレーズをやや大きくし第2フレーズをやや小さくひく、同様に第3フレーズと第4フレーズをコントラストさせて、おもしろ味のある様にひくこと。また cresc. と decresc. を忘れずにそして、人車など5フレーズの終りの低音を消音する際に、フレーズとフレーズの間に休みができるだけ入らないう様に注意して行くこと。

P40 3~4段目

2声あるいは3声の流れになっているので特に高音、低音の流れに注意すること、また低音のメロディーの最後の音はフレーズの終りの音になるので必ず弱音で処理すること。

P40. 5段目

6連符に入るとタイムが速すぎたりおそくなったりしないう様に注意すること。低音はうたう様なつもりで。

速いアルペジオの場合、セーハの移動などの様に左指の速い移動の際、楽譜と違った音でひいてしまうので注意して弾くこと。例えばP40 7段目の1,2小節目の終りの音、とかくそれらの音を解放感で弾きやすいので注意してほしい。またアルペジオの続く所では cresc. decresc. を充分考慮して演奏しないうと非常につまらなくなってしまう。

★教則本をパスするにはうまくなるよりも、先輩にひいてみてもらうのが一番。諸君、頑張ってくれ給え。

教則本解説 担当 D-AEN 音楽講師係

★サインスレーノ、デラマーサ、ナルシソ、イエパス、鈴木博 各氏のスイートする教則本解説コーナーを讀もう。これを讀めば君も必ず第2のイエパス、鈴木博となる。

★今回より当校劇団がギターアンサンブルのものであるというこを諸君に再認識していただく為、教則本の中より比較的ポイントとなる曲を選び、当局のカッテナ解説によって解説してゆくことになりました。どうか諸君の練習の参考にして下さい。

今回は一年生諸君に課せられたソルマがP40、しEからP39のラルゲットとP40のキユウ曲の2曲をえらびました。

★Larghetto (P39) 作曲者 F.Sor

この曲でポイントとなるのは、ひとつは2声および3声の和音をはきりきれいに演奏することです。もうひとつはフレーズを充分に考り、演奏してもらいたいという事です。また高音弦の1, 2, 3弦は特に注意して調弦してほしい。

1. *mp* *f* *mf* *f*

2. *de cresc.* *p*

3. *pp* *apag.* *のほろ* *p*

4. *2分*

5. *cresc.*

6. *同時にくこ。*

符点4分と16分のタイムを正確にひき、4, 5段目の装飾音では余りにイキバツたリ、タイムをくすしたりしない様にすること。特に5段目の装飾音は実際には実の様にひく、

6段目のところは、各声部の流れに注意し、音がなかなる様にひくこと。

3 タッチャンとキヤコが選んだ
D-GEN お題拝借 入選作品発表 SPRING



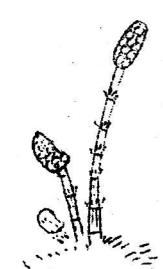
* 今回のお題は「春・SPRING」です。
* 次にえらんだ3つの他にも多くの郡員様からの投稿がありました。唯し高柳郷や郡島君の作品はあまりヒモはなはなだしく、その内容がオチてしまったので、アカデミックな内容の当校園紙とはみざわしくまいと思いましたが、ごそうざせいでいただきました。キヤコキヤンも来面してました。

* その1. 群馬県碓氷郡・神大・林檎科 飯塚 雅則
春-----春になるとチョウ知が2匹、上にな。たり下にな。たり。さらに上にな。たり下にな。たり、更にひっこく.....さらにさらにひっこく.....、時に甘母の子い子の様に右にな。たり左にな。たり.....
あ~~~~~チョウチョって いいなあ.....
でも先輩の増田さんが 言ってました、人間もいいもんだ"って。



* その2. 宮城県仙台市・神大・応化科 村井 茂え
春」が1楽章 アレグロ。
春がやってきた。
そして小鳥たちは喜しそうに歌って挨拶している。
でも私には春なんて果ないんだわ、きっと.....

そんなこといってる女の子にほくほくとやっていた。
何を言ってるんだい君、ほくの目をジッとみつめてごらん。
ホラッ、春はすぐそこに来てるじゃないか、ねえ」



* その3 愛知県高尾郡・神大 藤石真美子(仮名)
春.....春といえばもちろん、ハルちゃんのことネ。
それはそれは目かきれいな、澄んだ瞳をしているの。
その子と私はほととそそれは親しい仲です。一週間に少なくとも3日は一緒にぬるの。その子ったらすごく毛深いの、だからくすぐったくて。そしてあぐ私にいたずらするの。
今日はその子の誕生日。最近、耳とって歯が悪くなるのでカツオ節のかわりにイワシを買ってあげてるの。
大好きな、大好きな子猫ちゃん。

おしらせ

おしらせ



ギター曲ベスト・イレブーン

今回は休みが長かったので統計を集めるのがおくれたため、急いで当局のコンピューターにかけました。おまにあいせまんでしたので、休ませていたいただきます。

KUGE D-GEN 情報局.

随想

あし君の顔

午前七時 巨ざまー時計がけたたましくわの
 きたす。なにせ天下無類のヤボ君のこじ、いつ
 もはらう、えいむう十介位いいだらう。と蒲団の
 中にもぐりニンでしもうのですが、なにせ資本
 主義体制下の町工場における労働搾取の現状を
 肌身で感じとるべくアルバイト兼行中のおり、
 どうしても朝早く起きなければなく、仕方なし
 にこの愛用のマクラに別れのキズをして蒲団か
 らはい出してくるのです。やおら立ちあがり、
 すかさず歯ブラシを口にくわえ、そのまゝ便所
 にとびこむ。片手で歯をみがきながら一方の手
 で何をすすすのであります。何やかんやでタイ
 ムリミット寸前下着を飛びだしてバイト先へ一
 目さん。

いつこの通り慣れた通勤路へ決銀前の交差点から
 神奈川屋の前を通り大学食堂の前へと抜ける。
 ニニトヤボ君の経緯したフアンタジックなおと
 ぎ話の世界が展開するのであります。

いつこのこじく走りごみの大またを足で運ば
 せているし、いつこの見慣れた顔々がヤボ君に
 赤し目を送りながらすれ違ふのです。この一本
 道をかよう通勤者のほとんどは六角橋方向へ行
 くのですが、ヤボ君のように二ちうかう出がけ
 て行く者はほとんどおりません。ましてや学生

のいない春休みとまで、向かっでくる人々
 あついなあついな視線をまきしむらに受けるのは
 ヤボ君一人でありませぬ。そんな顔横じみの人
 の通勤姿は実に様々であります。毎朝、か
 足でバイ停まで行かなければ気のすまない者
 走りたいたいはやまやまだければ女の身である
 じつとこらえて足早に通りすぎる女。びっちょ
 と体にフィットしたシヤレタ背広をきて、ボ
 フス型のカッターコイイカバンを身にきたスマ
 ン若い男、まん丸い顔をして、あちなしのメ
 ンネをかけた、胸をほってゆっくりと歩き、い
 む必ずタバコを手にし、その手の小指はいつ
 ビンとはられ空をあおいでいる。もう一方
 手はおもむろにコートのポケットにのこま
 ている。(あ、しめをくれたキヤウをまさぐりあま
 しよう)そんなキザな四十代の男、厚化粧に付
 品のつけまつげをのけ、乱らな長い髪をバサ
 サさせ、肉づきのいい体にピタピタのパンタ
 フをはいてお尻をプリンプリンさせて色気た
 ぷりに歩く、すれた感じのすれ違ひの女、パン
 パンの白パンをはいたフリックとしたお尻がと
 るかっ、いいい乳屋のねえちやん。

そんな顔横じみのリストの中、いつの日か
 が突然、二の可愛い女の娘が加わりまし
 身の頃は十七八、優しい顔立ちに可愛いらしい
 クリッとした目、ののそりやかな体つき、肩を
 ニニうもち左にゆらゆらと歩く愛さうのあ
 歩き方、髪束だがとてむせつスのいい股袋、
 ニンなキョートな女の娘が二の道を通るよう

いくつになつたら自分の性と同じ性の方へは
 入らなければならぬが、存知ですか、あ、だか
 君達は何うその牙令に達してゐるんだよ
 鉄湯の入口も四季によつて変わるのだから
 夏には多くと木アにかわつてカーテンが下がるの
 である。風が吹くたびにカーテンが舞つて、春
 冬には束ゆかしの風情である。しかしカーテン
 が風に舞つて動く率は、男湯のそれと比べた女
 湯の方が、さうな気がするのには僕だけだろ
 うか
 又、皆さんの中には鉄湯へ行く時、ナニを期
 待して、わざと年月を待つていく人もお
 るのではないかと、僕の経験からして、ン
 ればえてしてむくわぬないものである。
 ニンにヒッておきの話を紹介したい。彼（ハッ
 プの裏人物）おまりにもハミヤイテイタ魚に
 服を脱ぎすて、ガラツと音を聞け、タイルの上
 に一歩足を入れたとたん、スライディングをして
 ああむけにバタンとひっくりかえつてしまつた。
 そして脳裏を蕩るおとし、いばらく氣を失なつ
 たらしい。は、は、とて気がついてみると、自分
 は大の字になつて、ひっくりかえつており、友人
 がかがみニンで彼の顔を見たいて、フオイ、だい
 じょうぶかいと言つていたのである。彼は、ヒッ
 っさにこの状況が理解できず、ニとそあううに
 自分も裸になれ、友人が自分のうえにのしかか
 つてくるのを、と感違ひしたらしい。う、う、う、
 とうとう、悪い冗談をするな、い、大まな声を言
 たらんだが、う、う、大変、友人はあせうし、ま



1224 野暮雨大

DIETEN 編集局

追記

鉄湯おける数々のエピソードがあれ
 は、是非とも投稿お願ひ申しあげます。

赤子の人は大丈いをするし、ニンとてよろしく
 休む洗わおに、そそくさとその場を退散したの
 である。それから一カ月間、彼はそこの鉄湯は
 使わはらつたさうである。これで終わるのには
 ない、今度は、さああがうと俵をふいて立ち
 あがうと、した瞬間、頭にかかりのショックを
 感じて、やむをえずあおむけにバタンとひっく
 リかえつた。ショロの口元に頭をぶつつけた
 のであつた。とほりにいたのは小学生の女の娘
 がおに、ニン、だいじょうぶしと見おろした
 彼、同じの同じ翌日に二度と風呂には行か
 ないと誓つてうだ、聞いてゐるニつちにしてみ
 ればおかし、てしようがはいのに、本人は冗談
 じゃないさ、である。……二度あるニとはう度
 ある………送御期待

その3

「アんだか古典が随分好きは学校ね。ア
しガの曲が一曲もなかったのわわわ
ッてるね。さういひのかしら。バツハ
バツカでかッコいいと思ッてやッてん
たけ水ビニッラはいいい思ッたにわい

その4

「アッておステキな曲があつたみたいね。
聞いていておとておリズムッてきれ
いで。ギターッてアステキだなあと思へ
たわい。

その5

「あの締曲山口先生やッちんだッて。そ
れにしては先生に敬意が払われていな
かつたみたいねえ。先生に海通来ても
らッてオレデシヨン開ッてもうッてる
んだッて。それにしては薄情だッたねい。

その6

「一年の女の子だよ。4ヨソクライイの
がいたじよん。ほうお前の襟に座ッて
たやつよ。それからよ。あのやけに胸
の長い野郎のとなりに座ッてた女の子
よ。緊張して足ガタガタさせてたせし
「違うんだよ太股かさねて。とよ重たく
てしびれてしまっくんだよ。俺はスマ
トで長いからカッコよくおさるッてい
だうい。
「それにしてわよ。お前のとほりの女の
やつ平気な様子だ。たけんじよ。あ
つるさうとう太が。たけんじよめい。

その7

「アめ。あいつの場合はずブトイんだよ。
「あのアニケート用紙なんだい。本気で
あんなんふうに採点してほしいのかい。
いわいいんだよ。書ッてやッてさ。
でえね。よくあんなんを聞く氣にな
たそんだねい。

その8

「おまえ知ッてかい。先生よ。具合悪か
たのに始めッから終わりを聞いてい
てくれ。たんたッてよ。演奏が終わ
つた後一人をボケッて杯しく帰ッてい
たんただよ。いや聞いた話だけんじよい。

その9

「なめにニニの女の娘達、もう少しスカ
「ト又、長くするもんよねい。
「どうよ。いやらしいわ。あんなんの。あ
の人運氣がつかないのかしらい。

その10

「おい。お前らのボスターオだほり。お
はしだぞ。定演終わ。たんたう。終任
未ごうのちよんとすれよ。え。終わ
たら俺達関係ない。てへえ。そんな
クラブかい。

さいゴに

「もうすんでしまつたことはいはひうだッて
いいだう。いささらとやかく言うなよ。

投稿

おんなに
関する雑文



フェミニニストを自認する私にとりまして、女性
は護美の対象でこそあれ、批判の対象なほ
は夢々ないのではありません。しかるに先般来、シ
の山心な私に多大なる悪感情を抱くDiergein
編集局から、某ネタと交換に文章を書くように
強迫され、胸を破られる思いでこの一文をもの
にしていくわけでありませぬ。

私、かつて某女性と男女間の問題について文
字通り口角を飛ばす大論争を展開したことが
ありました。その時感じたことは、一言でいえ
ば女性単純、軽薄、そして何よりも感情論的、然
じて回棘の悪い馬鹿が多いと言ふこととありま
す。どうしてか、た一人の女性と語らば、ただけ
ぞんは断片的なことが言えるのか、とお怒りに
なるのをごぞと、とてありませぬが、私の申しこ
げたい事は正確には、それとなく、おぼろげに
私の女性論がそれと一心とす、た形をと、た
、と言ふべきでし、よう、彼女は大学生ですが、
高校時代の模試では、総合で全国三位だ、た
というキチガイでありませぬ。と、ころがそのサイ
エンにしてからが、口をついて出る言葉はおよ
そ甘。ちよよい、美の浮くようなものばかり。
ニ言目にはサルトルは……、ボーヴォワールは……
であり、自分の主観はあまりありませぬ。すな

わち、みんな受け売りなのでありませぬ。
同一の命令であらば、(特に若い頃)、女性
の眼から見た男性は細く、お相手にはうな
いと、のこ、さ、とありなん。私の眼から見
れば同一命令の女の方はすべからずオバア
サンに見えるのこそかう……、わがオバ
ー部の女性部愛諸嬢の中にも前述のような
事をのたまうた御仁がいう。し、やるとか聞
さませぬ。それはさておき、女性がいかに単
純、軽薄、感情のみの動物であるかは、言
を待たずして、先人が多く語り、かつ書
き残してありませぬ。で、こゝではとりあげま
せん。しかし、目下恋愛、てい、は、それ

類したことに熱中しておられる方には無理
でありませぬ。うが、比較的夜語を精神状態
をお持ちの男性諸君、一度眼をお、びろげ
て、我らの愛する女性部愛諸嬢の三態をよ
つ、御カンサツあれ。男に生きたホコリ
と優越感でめ、さ、感、疾にむせぶことであ
りませぬ。
かのシヨールペンハウエルにまつわるエピ
ソードの一つに、ニン、その、があります。
シヨールペンハウエルが大学の教授時代、さ
るパーティーに召かれました折、同席の女

▽文芸欄

創作

流氷葉

第二章



北山女三

十五坪ほどの薄暗い地下室。そこが蘭子の戦場だ。ここに彼女の憎んでいる全てがあった。地下室は、一つの欺罔であり、彼女がいとも抜け出そうとしている、忌わしい表象でもあった。

今、彼女たちは、客のくる前のこの空虚な時間、幾分もてあましていた。蘭子にとつてもこの時間はうっとおしかった。形になりきれない色々な考えが、次々に彼女の神経をいら立たせた。

そんな考えにきりをつける為にか、彼女は一つの考えに執着した。錦ちゃんに靴を貰ってあげよう。

この考えは蘭子に満足を与えていた。蘭子は節男を好いては居たが、多分愛してはいなかった。それでいて、愛とは何かとど言う事を真剣に考えた事は一度もなかった。しかし彼女にとつて、その判断は当然の事だった。

いつだったか、彼女が正式に結婚しようと言った時、ただ涙を流すだけで、思い切れずにいるのも、案外そんなところが原因だったのだろう。

錦ちゃんに靴を買ってあげよう。

もう一度、彼女は小さな声で言ってみた。カウニターの中では、バーテンの牧村が所在なさに氷を砕いている。

「まいった、お客が来てくれなけりや、ワリッポを入れないコーヒーだよ。」 さっきから、蘭子の隣りで口紅をぬっていた純子が、突然大きな声を出したので、皆ドツと笑い出した。ママは又、どう意味をとり違えたのか、さも深刻そうに顔で「本当に、どういうわけか今月は、かまだからね。」といったので、笑い上戸のママなどは、苦しそうにヒイヒイ言って笑っている。

蘭子はそろそろ入ってくる酔客のために、もう一度コンパクトを開けてみた。

「ママ、男の厄年って幾つなの？」

「二十六と四十二よ。純ちゃんの彼氏二十六かあ。」

「うん、そうなの。まいつちやうな。」

店の中は、もう、いつお客が来てもいいよう華やいでいる。

「何か足りなそうだったのは、笑いだったのかしら。」

彼女は自分の年を思った。数えで三十三である。厄年か、それは彼女のため息だった。蘭子は、その予感にも似たため息に眉一つ動か

話によると、仲々、評判の良い、真じめな男だ
つたらしいです。……。

ここまで話すと、居士は、げげんな顔で私を
見ました。私は無意識の心の内を見られた気が
して、思わず顔を赤らめました。

「こんな話は退屈でしょう。」居士は川の方を
向いたまま、私に尋ねました。その声は、いた
わるようでしたが、言葉は私を責めているよう
に思われました。

夕闇は、居士を包み込んでいました。
私は居士がどんどん離れて行く気がして、う
わずつた声で問いかけました。
「それで、それで、女と、その許婚はどうした
のですか。」答えは背後から伝わってきた
した。

「去年、神戸に居るらしい話を聞きました。」
許婚の男は、初めから、彼女そのものを愛して
いたのではなかったのではありません。一年ほどして
他の女と結婚して、今は幸せな家庭を守ってい
ますよ。」

「女は懸命に生きていますよ。あの落葉の様に
……。風に吹かれても、流れに流されても、見
る人がいなくても。」

あとの言葉は、川の方から聞こえてきた。溪
流の、さわさわという音のなかから。

—四、十二—

詩

樹下の歌

祥彦

昨日の落日よりもおとおい
はるかなる空のういで
聞きとれぬくらくらい
あおじろい舞踏会がひらかれて
およそほどとおい世界からの妖精
美しく絹の袖はゆったり靡いた
—目の前の水面にさえなつかしい
小さな意志を落して。

ひとびろと雲がうすれてきたとき
たかい樹の幹にもたれていた
それはやはり苦痛にはちがいがいなか
たけれど。
ひとりとだった
肩の上にはやさしいひとの手はなかつた
不公平なことではなかつた
だれもが親切に
自分の故郷はそんなふうに善良だ
失わずも忘れ
捨てずも別れ
ひらびらと雲はうすれ
自分の夢想はさびしい風情に吹かれた。

D Gen 局員春期大募集

このたび、めでたく四年生へと進級になりました局員が、当局の編集顧問に昇進いたしましたので、当然ではあつたの創造力とあふれた若い力を必要としております。

待偶 完成の喜びをともに味わう
国産の力を増す

内志 年功序列あり

勤務時間は定まらず

応募・論文提出 内容自由。四〇〇字詰原稿用紙十枚以内。

面接 喫茶店^{ビル}にて個別に行なう。その際履歴書持参のニヒ

ク体検査 おつて連絡

資格・高卒以上

・文筆の才能の有る人

・寝食ともにこまる人

(女性歓迎)

大日本印刷株式会社
横浜工場にて徹夜に
イトの経験のある方

・D Gen 内部の

秘密を他にも

らさない意思

強靱な方



締切 いつまでもお待ちします。

雲ながれる町

渡辺忠矢編

「信越本線三糸」で弥彦線に乗り換えて、「吉田」までくると、相崎から分枝して新湯に至るバイパス線越後線と交差する。越後線で更にのぼれば、十分ばかりで巻駅に着く。我がクラブが部長渡辺忠矢はスーシケースとギターケースとを重そうにさげて巻駅におり立ち、東湯の自宅に急いだ。彼の自宅から東へ約三キロばかりのところに沼とも池ともつかぬ鏡湯という湖水が広がっている。それと併せて土手の提防に、帰省まもない彼が静かに歩み、ある思い出にふける姿を想像していただこう。そして、そのうえでこの物語をはじめてみよう。

彼には二人の思い出づる女性があった。一人は実の従妹にあたり、現在交際絶っている。一人は彼にとつて再び会うことのできる人ではなかった。

ときは彼が高校二年の夏である。

(1)であい

盛夏とは言え、新湯の夏は夕刻ともなるとすっきりとしたのびやかなる。西空には少しばかりの、らぎれたイワシ雲があつて、うすれかかった夕焼に色淡く染まっていた。彼はその夕方、元氣果敢な柴犬にひきまわされて走りつづけていた。犬は線路ぶちで何やらクンクン鼻をならし、やおおオシッコをしたが、さらに線路を越してかけだした。鎖を保持した彼も、やむなくヨタヨタとかけた。犬の散歩づれには存外な遠出であった為、彼はいいかげんうんざりしていた。

小道は水田の中にあつて、区画整理によつてあくまで幾可

学的につづいていた。

前方から自転車がきたのである。

「アルフォンヌ、何をやるの？」

彼の犬への叱咤と同じくらしい叫声がして、犬にとびつかれた自転車は転び、彼はおどろきのため、鎖をはなしてしまつた。

「大丈夫ですか！」

小道には、絵のぐのチヨブ、筆などがはでに散らばり、それでも少女は気丈夫に立ちあがろうとしていた。悪戯な犬はしばらく意味なく回転する車輪にひかれていたが、解放されていることに気づくや無反省に鎖をひきずってかき去つた。草の汗の緑が、白い袖元を汚しただけで立ちあがった少女は、ストラックスをばらけてから、肩の髪を後ろに揃えた。そして、どことなく気の毒そうに、はじめ彼を見た。

「すみません。大丈夫でしたか？」

「ええ、心配ありませんから。」

はじめ言葉交す者がよくする自己の感情を差し控えた、ある断定的なひびきが落ちついた小さな返事から感じとれた。四散した絵具やカンパスやらを拾うのを手伝いながら、しばらく心配のぬぐいきれない彼に少女は、もう笑いかけていた。

「アルフォンヌ又つて言うんですか？あの犬。」

「そうです。」

「おもしろい名前なんですわね。」

彼は、色きかけの絵が水彩でなく、油絵であることに気づいたが、別にそれについて何も言うことはしなかった。

(2)姉とおとうと

数日ばかりして、やがて夏も暑いさかりの土用を過ぎようとしていた。そんな夕方遅くに外から帰ってきた彼に姉はいきなり、小言をいいた。

「忠矢ったら、皆んな夕飯待ってるのよ。一日中ゴロゴロし

「わかったよ。」
「わかったよ。」
「たよ、入試の勉強のことで。」
「たよ、入試の勉強のことで。」
「たよ、入試の勉強のことで。」
「たよ、入試の勉強のことで。」

「その言葉にたみかけるように姉は言った。」
「つまんなかった。て言つてたでしよう。」
「たのしかった。て言つてたでしよう。」
「たのしかった。て言つてたでしよう。」

「何い言つてんの。海水浴だつて、その日になつて行かないはんで。」
「あんなにごう黙つてて行つての。約束やぶつたのよ。」
「あんなにごう黙つてて行つての。約束やぶつたのよ。」

「おつ、やるか。」
「おつ、やるか。」
「おつ、やるか。」
「おつ、やるか。」

「忠矢、お前の方が悪いのよ。さあ、はやく手を洗つて来な。」
「忠矢、お前の方が悪いのよ。さあ、はやく手を洗つて来な。」
「忠矢、お前の方が悪いのよ。さあ、はやく手を洗つて来な。」

「はやくもボインの素質じゅうぶん。」
「はやくもボインの素質じゅうぶん。」
「はやくもボインの素質じゅうぶん。」

「まだ先だ。」
「まだ先だ。」
「まだ先だ。」

「あえ、兄貴だつて大学入試が来年にもあるくせに。」
「あえ、兄貴だつて大学入試が来年にもあるくせに。」
「あえ、兄貴だつて大学入試が来年にもあるくせに。」

「忠矢はムツとして部屋をでていき、忠武はいましましそうちにうらした。」
「忠矢はムツとして部屋をでていき、忠武はいましましそうちにうらした。」
「忠矢はムツとして部屋をでていき、忠武はいましましそうちにうらした。」

「翌日の夕刻、彼は昨日と同じように、鏡湯の方に自転車を走らせていた。」
「翌日の夕刻、彼は昨日と同じように、鏡湯の方に自転車を走らせていた。」
「翌日の夕刻、彼は昨日と同じように、鏡湯の方に自転車を走らせていた。」

道事はすぐきた。病院で書いたにちがいない。どこかたどたどしいところがあったが、素直な述懐の中に、少なくとも胸がさしたかいたい。なすと書いてよすようなはらからがす、と細い字は報告していた。

絵のこと、学校のこと、大学のこと、将来の夢。

何回かの便りが住復し、やがて、二年半の歳月が流れてい

忠武と陽子も、彼と同じ県立巻子高校の二年の課程を終えようとしていた。忠矢は浪人の身であった。

彼には、大学入学で、まだ入院中の、つぶらの病床をおとずれるという約束があったため、彼は別人のように勉学に身をついやした。そのかいあってか、補習科の担当教師も、才一志望である東京大学も、ひよつとして合格するだろうと不敵判を押しした。その代り才一志望は先生の言を入れて神奈川大学にした。

それでも彼の表情は日増しにさえなかつた。

近頃、つぶらからの便りが疎遠になつていくのである。あれほど、彼の入試をはげまし、一度彼のギタールも聞きたい、私もたくさん絵を描きました、と書いてきたつぶらからの便りが二ヶ月ばかりとんとないないあった。

(6) 事件

そんなある夕方であった。彼は少し外に散歩にでた。雪は少雪である。

三月半ば、それでも春はまだかであったが、雪は依然とけゆく様子もなく、寒気はさびしかった。彼にとつて、雪の冬は長く、休暇に等しかった。

彼はすぐ近くの土手にのぼって川をながめた。夜自に一面しらび



ら光るのは溶けやらぬ氷の証拠そのものであった。彼は気ま

まに雪を踏んだ。

「忠矢さんでしよう。」

「私、おつかいの婦なのよ。」

「女性夜の一人歩きはいけません。」

「彼はそれなりの気のきいた言葉をかえした。」

「陽子も一度ころがそうになり、彼にむかつてクスマツと笑つてみ

せた。

「つぶらちゃんのことでも考えてたの？」

「彼は驚いた。」

「わあ、びっくりしたでしよう。私、忠武クンから聞いて

知っているんだから。忠武クンでね、黙ってないしよで手紙

読んだことあるんですって！」

陽子はひとときわはしやいで一気に入しゃべったが、その言葉

の終らぬうち忠矢のはげしい言葉が川面にとんだ。

「陽ちゃん俺より忠武のほうが好きなんだらう。!!」

忠矢は息をのんだままいた。自分の発した言葉自体に庄

されて。

「やがて陽子の低い声かした。」

「じやあ、ど、どうなんだ!!」

この向髪であった。忠矢は先っきより大きな声をだした。こ

とは感じたが、実際には、足もすくむような重大なことかお

こつていた。陽子は忠矢の腕の中にとらえられて、まっ青に

息をとめて彼を見あげた。忠矢はただならぬ肉感と、甘い、

たしかな髪の匂いとに我にかえつて、あわてて抱きよせた腕

を離した。血は逆流した。

「解き放たれた陽子は苦しそうな泣き声をあげた。」

「彼は言葉のつづかないまま、小さい頃の、お医者さんごっ

こと全くかけはなれた現実感に身動きできなかつた。夢中だ

添付楽譜

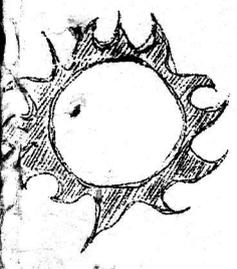
Romanze No. 1 op. 1

山内常孝作曲



山内常孝 1948 ~

当年21才。川崎の富民街に生ずる。
 幼少の病をわずかに不ルモノ異常で巨人とほむ。
 4才以て178cmの身長に達し、以後成長止る。
 各方面に卓越した才能を見せしが、特に音楽の才能は目に見張る
 ものがあつた。独学でギターを習得し、その荒々しく、ダイミツの演奏
 からは、彼の天賦の才能の一端がうかがえる。
 作曲も独学で学び、数多くの傑作を世に出しているが、この曲が中でも
 傑作中の傑作といわれ、彼のいかに顔がけは想像にでき
 るい、優しさもあつたといふ。中世君もあつた。山口昭三氏
 3,500円



川大ギターアンサンブル
関紙 "GaenRe"
D-GEN 編集局
大日本印刷株式会社 夜間営業部

